

令和8年度第1回学校運営協議会議事録

- 1 日 時：令和8年5月21日（木）16:00～17:05
- 2 場 所：本校会議室
- 3 出席者：学校運営協議会委員8名
本校職員7名（校長、副校長、事務長、各課主任、総務課員）
計15名

- 4 次 第：
 - 1 開 会
 - 2 学校長挨拶
 - 3 会長及び副会長の選出
 - 4 協 議
 - (1) 令和8年度学校経営計画について
 - (2) 大野高校への支援事業について
 - (3) その他
 - 5 その他
 - 6 閉 会

5 内 容：

- 1 開 会
- 2 学校長挨拶

日頃から本校の様々な教育活動にご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。学校では、男子8名、女子8名の計16名の新生を迎え、全校生徒38名でスタートしている。残念ながら今年度も定員の過半数を上回ることができず、3年連続20名以下となり、県のどのような判断が下されるか現時点ではわからない状況であるが、在籍している生徒たちに楽しい学校生活、安心安全な学校生活を提供する点では引き続き皆様のお力添えが必要である。本日は忌憚のないご意見をいただき、今後の学校運営に活かして参りたい。

3 会長及び副会長の選出

会長に野田雄二委員、副会長に野田大介委員を選出した。

4 協議【質疑・意見交換】

(1) 令和8年度学校経営計画について

G 氏：生徒数が少なくなっている状況の中、学習面においてどのように充実を図っているのか。

副校長：生徒数は少ないが、カリキュラムは変わっていない。引き続き生徒の進路に合わせた授業等を行っている。

D 氏：1ページの2(2)カリキュラム・ポリシーに「2・3学年では一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に定めるための選択科目を設置したカリキュラム」とある。地域では、大野高校の先生方は一人ひとりの生徒に対して熱心に指導していると聞くが、学校独自のカリキュラムというものはあるのか。

副校長：学校独自のカリキュラムの話題では、工芸の授業が言える。カリキュラム・

ポリシーに沿った話題では、例えば就職希望の生徒であれば、商業科目の授業を実施したり、進学希望の生徒であれば理科教科での生物や物理など受験に対応した授業を実施している。

D 氏：私の高校時代（卒業生だが）には、クラス単位で就職・進学と分かれていた記憶があるが。

副校長：現在は、1つのクラスの中に就職希望と進学希望の生徒が混在している状況で、授業によって分かれて実施されている形である。

D 氏：地域の関わりの面で、大野高校は地域とうまくいっていると理解しているが、いかがか。

副校長：本日出席いただいている委員の皆様には、地域との関わりという面ではお世話になっている方々である。また、教育活動以外でも生徒のアルバイトなどで地域との関わりがあると感じている。

B 氏：総合的な探究の時間は、いつ頃から始まり、何を目的に行われているものなのか。

副校長：文部科学省の学習指導要領に盛り込まれており、中学校でもある。

校長：中学校では「総合的な学習の時間」という設定で、高校は総合的な学習の時間から総合的な探究の時間という名称となった。

<後日確認>

「総合的な学習の時間」は、1998年（平成10年）の学習指導要領改訂により創設されました。導入時期は学校段階によって異なり、小学校・中学校では2002年度（平成14年度）から、高等学校では2003年度（平成15年度）から本格的に実施されました。

「総合的な探究の時間」は、2022年度（令和4年度）から全国の高等学校で正式に導入されました。それまでの「総合的な学習の時間」から名称が変更され、より課題解決能力や探究心を育む内容へと進化しています。

なお、小学校・中学校では現在も引き続き「総合的な学習の時間」として実施されています。

B 氏：どの高校も地域と連携して実施（活動）しているのか。

副校長：地域との活動であったり、個人やグループで課題を設定して、調べたりしながら課題を解決していく形もある。

E 氏：探究活動は、社会で言うPDCAサイクルのような流れで、自分が興味・関心を持ったことに対して自ら経験しながら力をつけていく活動となる。

B 氏：今年度もE氏が関わるとのことだが、1年限りとなるのか。

副校長：お願いするコーディネーターへは、旅費と謝礼を支給している。これまでは県からの補助で賄っているが、県からの補助がなくなれば学校側の負担となる可能性がある。

E 氏：他の地域では、地域おこし協力隊が学校現場に入って活動しているところもある。

副校長：大槌高校は、町で雇用したNPO法人の職員などが学校に常駐して総合探究などを実施している。

H 氏：住田高校も同じく町の職員 2 名が高校に常駐して総合探究の支援を行っており、個別にテーマを設定して活動しているようだ。

住田高校では、学校運営協議会の開催に合わせて、生徒の探究活動のスタートから経過報告、成果報告という流れで進めている。

異議なし、承認

(2) 大野高校への支援事業について

D 氏：緑と水の森林ファンド事業補助が打ち切られることは考えられるのか。

副校長：この事業へは、同様の内容で何年も申請している経緯があるので、同じ事業として打ち切られる可能性がある。

D 氏：同じ事業で打ち切られる可能性があるにも関わらず、継続して補助を受けているということは、事業として認められているのではないか。

副校長：理由かどうか根拠的なものはないが、学校（高校）単位で申請して補助を受けているケースは少ない。

A 氏：いわて高校魅力化推進事業からの補助で活用している、卒業した先輩による出前講義について、高校生や中学生の関心度についてどのような様子か。

副校長：中学校を訪問しての中学生の感想などは共有していないので不明な部分もあるが、高校では始めに全体で卒業生からの話を聞いてから、就職希望の生徒・進学希望の生徒が分かれて、就職した先輩・進学した先輩からさらに詳しく話を聞くことができる時間を設けている。中学生にも「大野高校へ入学したらこんな進路に行けるんだ」というのは伝わっていると思う。

C 氏：毎年、何名くらいが中学校を訪問しているのか。

副校長：大体ではあるが、就職・進学した卒業生 2 名ずつくらいである。

異議なし、承認

(3) その他

H 氏：おおのカフェについて。来週 26 日（火）15:45 から定例で開催するのでご案内する。また、カフェオープン当時から協賛でおおのミルク工房様やおおのスーパー、フードバンク岩手様より飲料や食品等をいただいております、特にもおおのミルク工房様からは 26 日に新入生対象にアイスクリームを無償で提供いただく予定である。

カフェの充実のために室内の Wifi 設置を目指して町の事業申請を行ったが、備品に対する補助は難しいとのことであった。引き続きカフェの充実に向けて努力していきたい。

4 その他

特になし

5 閉会